

きた産業株式会社

770社もの酒関係の会社とお取引。
時代にあった新商品も開発しています。

代表取締役喜多常夫さん

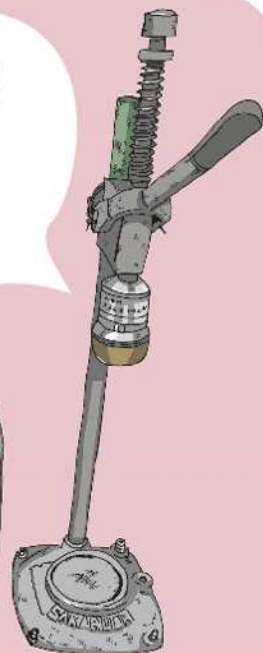


「お客様の商品の付加価値を高めるパッケージ資材とパッケージング機械」。「他社にない独自の技術開発モノづくり、商品企画」が当社の企業理念です。清酒やワイン、地ビールのキャップや王冠など、8割以上が酒類関係。全国約1400社ある清酒関連企業のうち770社とお取引しています。クラフトビール市場では、約220社のうち170社もの企業とお取引。ビール会社の研究室は少量の試作品を作りますが、その機器も販売。大手機器メーカーは大量生産向けの機器が中心で、研究室用の少量生産のものは採算が合わず手を出さないです。そういった、少量生産を行う機器に特化して、海外から輸入しています。

時代とともにキャップやふた、ボトルも進化。次々と新商品を開発するのではなく、お客様との付き合いの中でこんなものがあつたらという声を大切に、時代にあった商品を開発していきたい。



誰もが一度は目にしたことのあるお酒の蓋は同社の製品。



品質検査は人の手も使います。
厳しく行かれています。

クラフトビールも
ビールの種類は多岐にわたります
検査機器はいろいろと
大量生産の専用マシン
には、大工打込みマシン
の他にも、酒造りの工程で
使われる各種の
マシンも
たくさんあります。
月桂冠の蓋
備蓄スペースのクリンクの瓶
イチロー選手の瓶や
ラベルも。

同社の製造する瓶は、底にK2、KKなど印字されている。

社長の趣味は
オスロバーは



我が社の
自慢

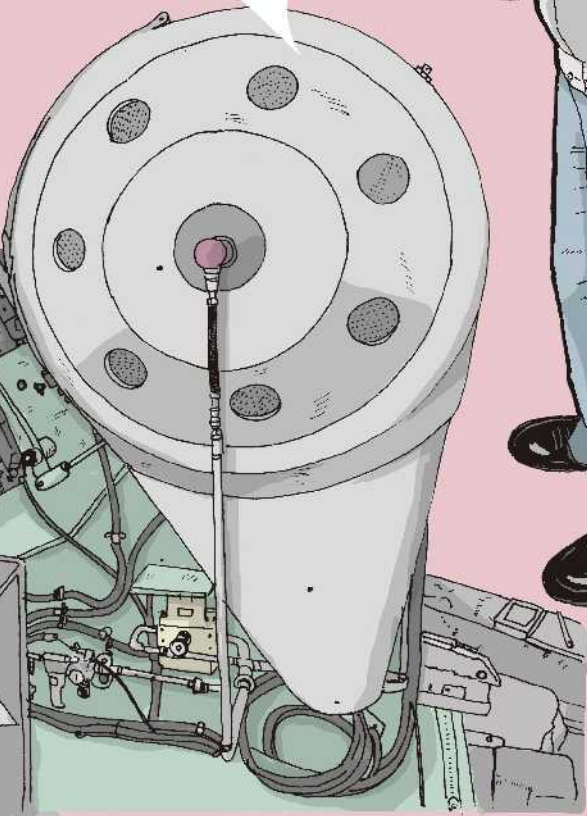
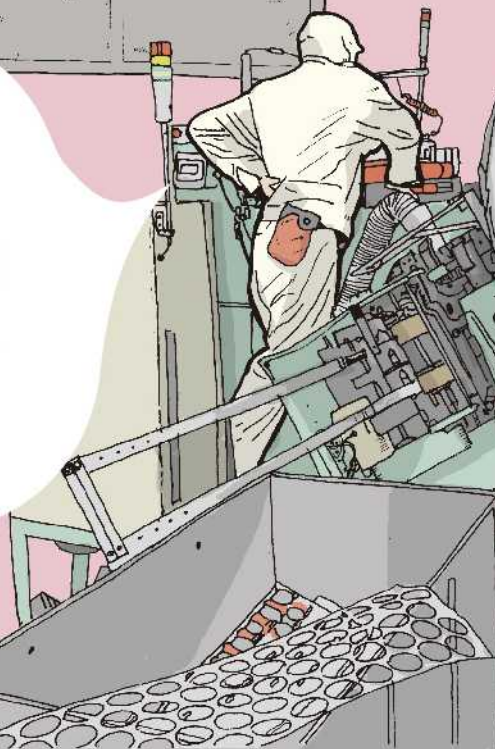
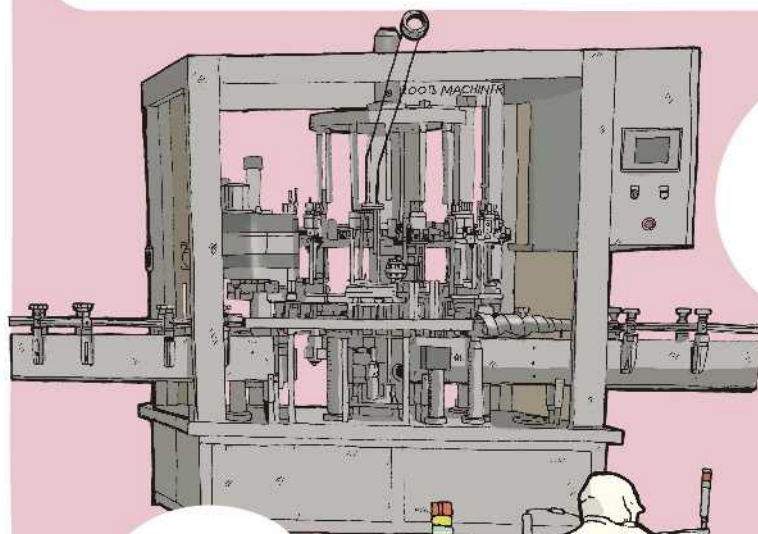
地域のために、住宅地も増えている現在の場所
で、将来も安定的に製造を続けたい
と考えている。つまり、地域との共存を
ここで毎週金曜もしくは土曜に会社の周
辺を20分間、掃除している。



街中に工場があるので
近隣との共存を
第一に考えています。

2000年頃、
日本酒のトビこと、
本河安積は約7億本。
それが現在では、
5000万本くらい。
つまり日本酒は紙の器へと
時代とともに
変わっていき、
変革の激しいもの
に
特化し、
技術を磨き
ついでに
増やしてきました。

1日に製造する
キャップや蓋は、合計で
約100万個です。



「酒のトビこと」
「酒のトビこと」の研究
取引先など2000社に
配布しています。

コルク栓や王冠製造が原点 今年で100年を迎える

桃谷駅からすぐの場所にあるきた産業。ビールやワインなどのコルク栓、王冠キャップなどを製造する。社長の祖父が大正5年に床材や断熱材としてのコルクを扱う「喜多鐵之助商店」を創業。その後、大正8年に祖父は単身、スペイン・カタルニアに行きコルク加工を学び、大正14年にはコルク産地のアルジェリアから直接、買い付け。そこから酒類の王冠やコルク栓の製造をはじめ。戦時中は事業を停止していたが、昭和35年ごろから清酒の需要増に伴い、業績も拡大していった。

時代とともに、コルクに変わってプラスチックへ。さらに、めくって蓋をあけるタイプなど商品も多様化。水を加えるだけで加熱される加熱機能付き容器など、世の中になかった商品も作り出した。

さらに、2001年からは「K2 ディビジョン」を立ち上げた。K2とは「パッケージの新しい価値(Kachi)を開発(Kaihatsu)」の2つの頭文字。ガラスびん、アルミ缶、紙パッケージ、ステンレス樽において、今までにない製品を作り出すことを目指している。さらに、瓶詰機やワイン醸造設備など機械販売を行う「ROOTS ディビジョン」も展開する。

半世紀以上にわたって継続取引をしている取引先は約150社。このことから、製品のクオリティや企業への信頼感の高さがうかがえる。

きた産業株式会社

<http://www.kitasangyo.com/>
〒544-0034 大阪市生野区桃谷1-3-9
TEL 06-6731-0251 FAX 06-6712-6023

事業内容/キャップ、PET ボトル、加熱機能つき容器の製造・販売。ガラスびん、アルミ缶、紙製品など各種パッケージの企画・販売。包装資材の輸入・販売、パッケージなどのデザイン。びん・缶詰め機械の製造・販売。ワイン・ビールの醸造設備の輸入・販売。ガス関連測定器具の輸入・販売